

令和元年度

教育委員会の活動の点検・評価報告書

令和2年9月

尾鷲市教育委員会

目 次

1. はじめに

- 1. 点検・評価制度の趣旨・・・・・・・・・・・・・P 1
- 2. 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・P 2
- 3. 評価の判断基準・・・・・・・・・・・・・P 2
- 4. 尾鷲市教育ビジョン体系図・・・・・・・・・・・・・P 3
- 5. 施策体系図・・・・・・・・・・・・・P 4

II. 事業評価

- 1. 令和元年度主要施策の成果及び
実績報告書評価一覧表・・・・・・・・P 5
- 2. 令和元年度主要施策の成果及び実績報告書・・・・・・・・P 6～P 2 9

III. 教育委員会の活動状況

- 1. 活動状況・・・・・・・・・・・・・P 3 0～P 3 1
 - ①尾鷲市教育委員会委員選任状況
 - ②教育委員会会議の開催状況
 - ③審議状況
 - ④審議された議案
 - ⑤教育委員会会議以外の主な活動

IV. 第三者評価（学識経験者の知見の活用）

- 1. 第三者評価委員・・・・・・・・・・・・・P 3 2
- 2. 第三者評価委員の評価について
 - 山本委員の評価・・・・・・・・・・・・・P 3 2～P 3 6
 - 湯浅委員の評価・・・・・・・・・・・・・P 3 7～P 4 3

V. 教育委員による評価

- 教育委員の評価・・・・・・・・・・・・・P 4 4～P 5 0

VI. おわりに・・・・・・・・・・・・・P 5 1

I はじめに

1. 点検・評価制度の趣旨

尾鷲市教育委員会は、目指すべき教育として「尾鷲に誇りを持ち、自ら学び自らを磨き上げ、豊かな心をそなえ他者と協同し、自らのあり方や生き方を身につけ、健やかな体と体力をそなえた人」を基本指針に掲げ、子どもや市民一人ひとりの学びを大切にしたい楽しい学校、生きがいのあるまちづくりを目指しています。

そのため、「おわせ^{ひと}人としての人間性を育む教育」として『施策1. 就学前教育の推進』『施策2. 学校教育の推進』『施策3. 青少年の健全育成』、「おわせを誇ることのできる教育」として『施策4. 生涯教育の推進』、「時代の変化に対応するおわせの教育」として『施策5. 学校と地域の共創の推進』という5つの施策の取組を進めていくため学校教育・地域教育・家庭教育・社会教育など様々な角度から教育の充実・連携を図るとともに、伝統文化やスポーツ活動の充実・資質向上に向けて取り組んでいるところです。

そこで、これらの教育行政が十分に執行されているかどうかについて、教育委員自らが点検・評価する必要があるとともに、市民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させていくことが求められていることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、結果を議会に報告するとともに、公表しなければならないとされております。

そこで、教育委員会では、法の趣旨に則り、効率的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和元年度の事務事業について点検・評価を実施し報告書にまとめました。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検・評価の対象

尾鷲市教育委員会は、平成25年3月に未来に向けて豊かで活力ある尾鷲市を築いていくために、今後10年間の本市における教育の基本的な方向性や重点施策等を示した「尾鷲市教育ビジョン」を策定しました。

尾鷲市教育ビジョンは「共創・共育・共感～次代を創る“おわせ人”づくり～」を基本理念とし、「尾鷲に誇りを持ち愛することができる人」「自ら学び自らを磨き続ける人」「豊かな心をそなえ他者と協同できる人」「自らのあり方・生き方を身につけた人」「健やかな体と体力をそなえた人」のおわせ^{びと}人づくりの実現を目指しています。

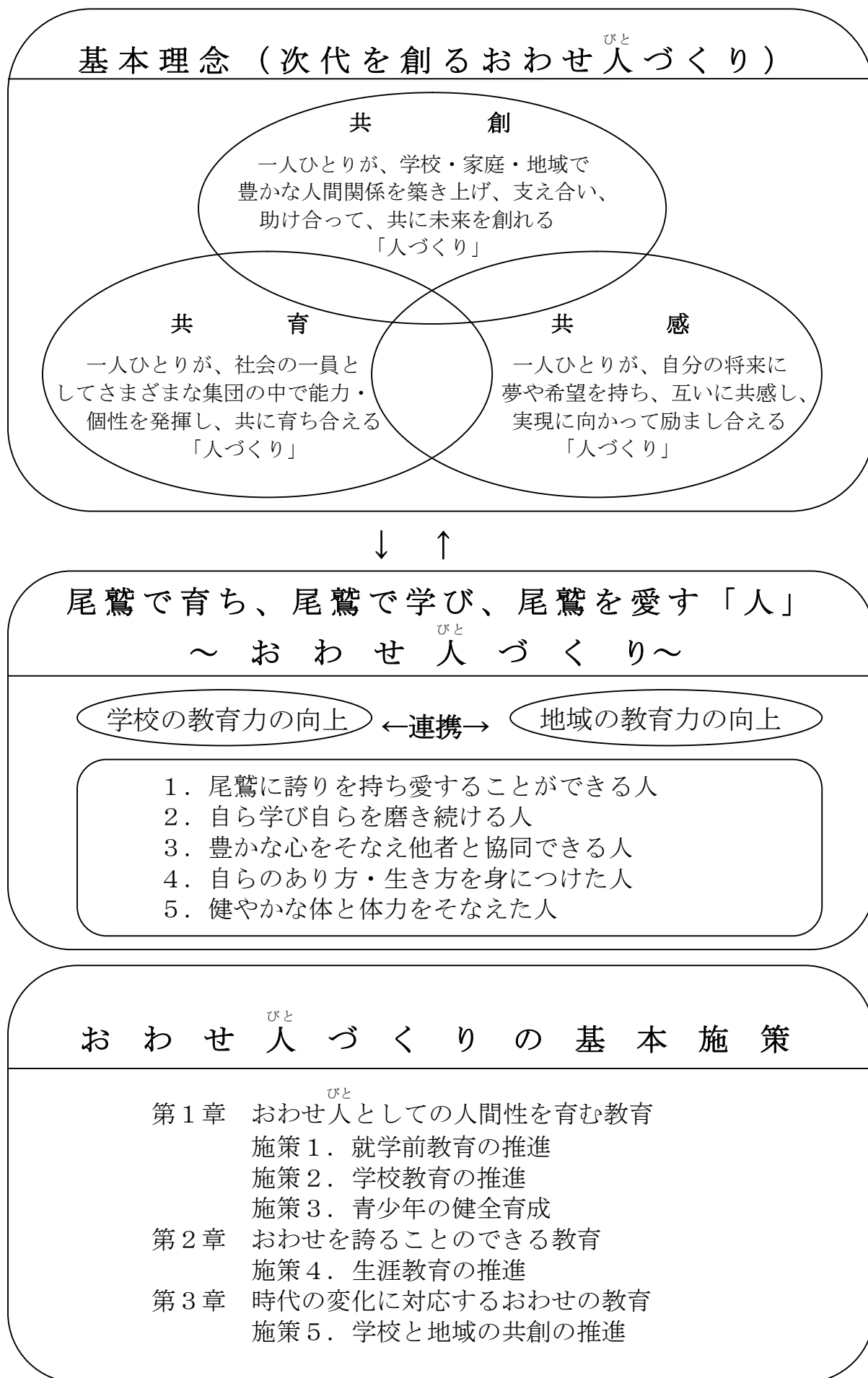
今回の評価にあたっては、尾鷲市教育ビジョンの主な取組の中から24の事業を選定し「主要施策の成果及び実績報告書」として、各事業について、目的・内容・成果の観点から評価を行いました。

3. 評価の判断基準

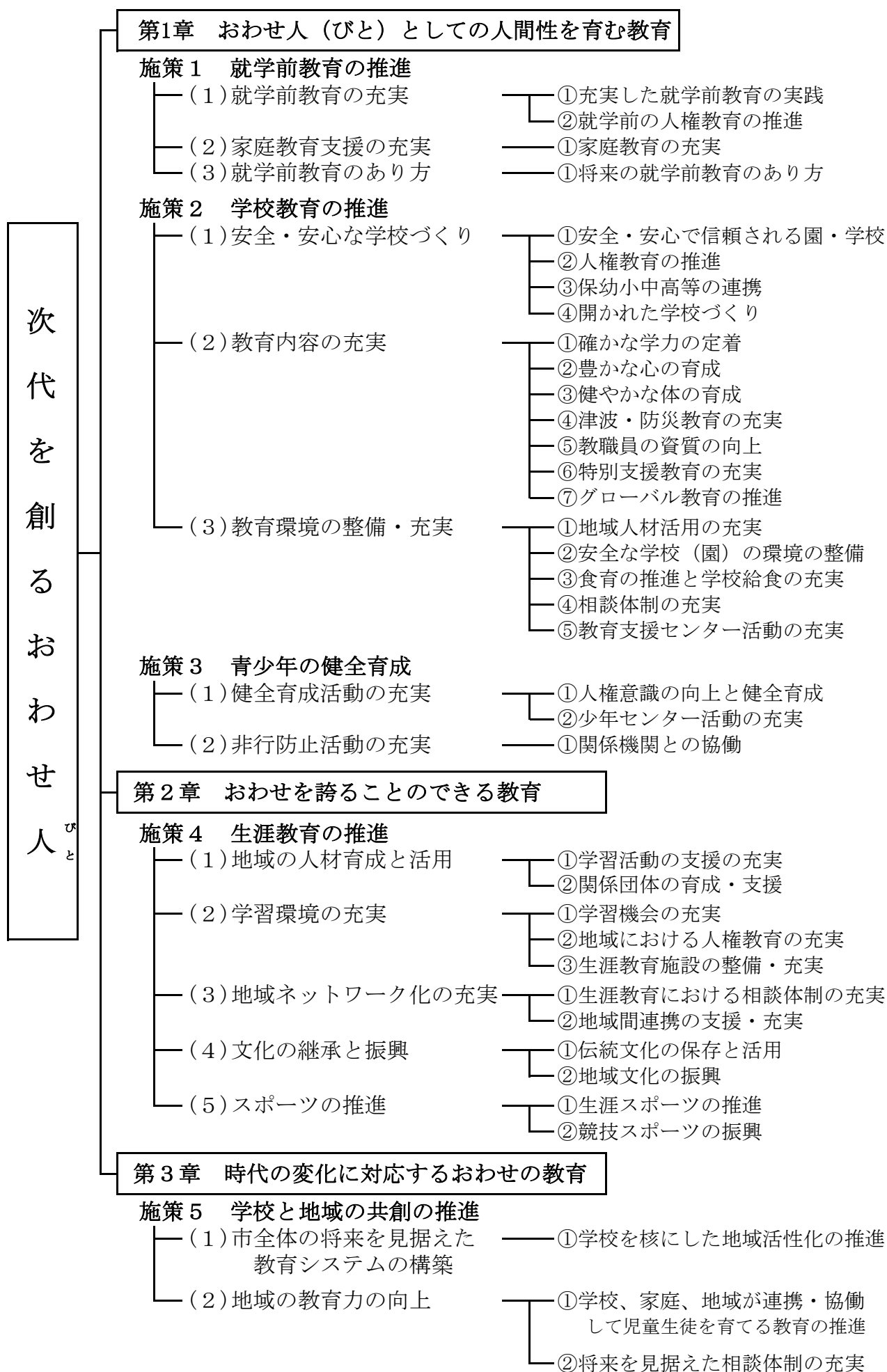
施策を構成する主な事業の実績を、以下の5段階の評価基準に基づき、達成状況、成果から総合評価を行います。

評 価	評 価 基 準
S	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。
B	目標を一定以上達成しているが、更に取り組む余地がある。
C	目標をあまり達成できず、改善の必要がある。
D	目標をほとんど達成できておらず、見直しの必要がある。

4. 尾鷲市教育ビジョン体系図



5. 施策体系図



Ⅱ 事業評価

1. 令和元年度主要施策の成果及び実績報告書評価一覧表

番号	主要施策名	評価	担当課
1	九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業	A	教育総務課
2	共創・共育・共感推進事業	A	教育総務課
3	魅力ある学校づくり推進事業	B	教育総務課
4	奨学金貸付事業	B	教育総務課
5	小学校施設整備事業	A	教育総務課
6	ふるさと教育支援事業	A	教育総務課
7	子どもの学びと育ち育成支援事業	A	教育総務課
8	中学校施設整備事業	A	教育総務課
9	見守り子育て推進事業	A	生涯学習課
10	成人式事業	A	生涯学習課
11	放課後子ども教室推進事業	A	生涯学習課
12	公民館事業	B	生涯学習課
13	わんぱく子育て推進事業（親子天文サイエンス教室事業）	A	生涯学習課
14	天文科学館管理運営事業	B	生涯学習課
15	本読み子育て推進事業	A	生涯学習課
16	図書館管理運営事業	A	生涯学習課
17	わんぱく子育て推進事業（自然サイエンス教室事業）	B	生涯学習課
18	わんぱく子育て推進事業（須賀利大池活用事業）	B	生涯学習課
19	文化財一般保護事業	A	生涯学習課
20	郷土室保存運営事業	A	生涯学習課
21	少年センター事業	A	生涯学習課
22	文化会館管理事業	B	生涯学習課
23	スポーツ振興事業	A	生涯学習課
24	三重とこわか国体活動費	A	生涯学習課

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名 : 教育総務課

事業名	九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					学校教育の充実				
事業開始年度	平成１５年度									
対象	九鬼・輪内地区の児童・生徒及び園児									
事業の目的	九鬼・輪内地区における小中学生及び幼稚園児の通学・通園手段の確保、添乗員による一部介助及び地域間交流活動等を行う際の移動手段の確保を目的とする。									
事業の内容	①事業内容 ・スクールバス（3台）の運行管理業務 ・梶賀、曾根、古江、三木里、三木浦、早田、九鬼地区の小中学生及び幼稚園児の登下校時の運行 ・幼稚園児（通年）と三木浦・三木里地区の児童生徒（１学期間）の添乗介助業務 ・地域間交流活動等の移動時の運行 ・スクールバス乗車時の避難訓練の実施 ②経費内訳 ・委託料：14,215,780円（自賠責保険料，自動車重量税等を含む）									
事業成果	九鬼・輪内地区の小中学生及び園児の安全・安心な通学・通園手段を確保することができた。 また、地域内での伝統行事、校外学習等における移動手段としての利用により、地域住民との交流を通じ、社会生活、郷土愛等を育む教育環境の充実を図ることができた。									
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	教育一般事務局費		
事業費（決算額）	14,216 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			14,216 千円
その他										

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	共創・共育・共感推進事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					学校教育の充実				
事業開始年度	平成25年度									
対象	児童・生徒及び特別支援学級等に在籍する児童・生徒									
事業の目的	・ 特別な教育支援の必要がある障がいを持つ子どもたち一人ひとりの教育と安全・安心を保障する。 ・ 学力格差が大きくなるなか、学びのサポーターの活用により、基礎学力の定着と向上を図り、子どもたちの学びを支援する。 ・ 学校図書館の充実により、確かな学力の育成・児童生徒の豊かな人間性を形成する。									
事業の内容	①事業内容 ・ 特別支援教育サポーター（学校介助員）の配置 小中学校の特別支援学級では、同一種別学級の児童・生徒でも、一人ひとりの障がいの種別・程度など状況が違いため、担任1人では十分な支援・指導が難しい。一人ひとりの教育的ニーズにあわせた適切な支援・指導を行う。 ・ 学びのサポーターの配置 子どもたちの学力格差が大きくなり2極化傾向が増しているが、学習に対して困り感のある子どもたちの基礎学力の定着や向上を図るための支援を行う。また、いじめや不登校など人間関係の問題も多くなるなか、安心と励ましを大切に教育活動と仲間や学級へのつなぎ(復帰・定着)を支援する。 ・ 学校図書館司書の配置 図書の整備、学習支援及び本と子どもたちを結ぶ中心として、子どもたちが図書室に行けば、常時サポートできる体制づくりを行う。 ②経費内訳 ・ 共済費（社会保険料及び雇用保険料）： 4,424,659円 - 賃金（臨時雇賃金）： 27,927,643円 - 旅費（普通旅費）： 5,720円									
事業成果	・ 特別支援教育サポーター並びに学びのサポーターの配置により、支援が必要な児童に対して、個々の特性に応じたきめ細かな支援を行うことができた。結果、児童が安心して学習活動に取り組むことができ、児童の自尊感情の高まりや意欲的な学びにつなげることができた。 ・ 特別支援学級の児童生徒の安全確保、食事指導を含む介助の充実、自立支援等個々の教育的ニーズに応じた対応を取ることができた。様々な教育活動の場面で、個々の成長を支える重要な役割を果たすことができた。 ・ 学校図書館司書の配置により学習環境、読書環境も常に整備され、児童生徒の意欲的な読書活動につながっている。									
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	共創・共育・共感推進事業		
事業費（決算額）	32,358 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			32,358 千円
その他										

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	魅力ある学校づくり推進事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					学校教育の充実				
事業開始年度	令和元年度									
対象	児童・生徒									
事業の目的	学校の特色化、魅力ある学校づくりを進めるため、三重大学との共同研究により、賀田小学校と輪内中学校をモデル校に位置づけ、小中連携した9ヶ年の英語カリキュラムを開発、児童・生徒の英語力、コミュニケーション力の向上により、グローバルな人材を育てる。また、教職員向けの研修会等を通じ、指導のノウハウを市内の小中学校に伝達し、市全体の英語教育の充実を図る。									
事業の内容	①事業内容 ・三重大学との共同研究により、9年間を通じた英語教育を充実させ、独自のカリキュラムを開発する。 ・授業参観、モデル授業を通して、指導法や教材活用に関する研修を進め、特に英語の指導経験が少ない小学校教諭に対し、重点的に助言指導を行う。 ・教職員を対象に、教材の活用法を学ぶための講習会、研修会を開催する。 ・地域の魅力を題材にした教材等を開発する。 ②経費内訳 ・報償費（講師謝礼）：100,000円 ・需用費（消耗品費）：248,372円 ・委託料（業務委託料）：113,850円									
事業成果	・「フォニックス（発音と文字の関係性から正しい発音を学ぶ学習法）」の指導、「英会話たいそう」を通してフレーズの学習を進めた。 ・アンケート結果では、ほとんどの児童生徒が英語学習を楽しんでおり、また英語の音やフレーズをすらすら言えると感じている。保護者からは「習ってきた英会話の発音がとてもキレイでびっくりした」、「普段の会話で英語を使うことが増えてきた」という声が聞かれた。 ・賀田小学校において6回研究授業を行い、2回講師を招聘して指導法についての講習会を開催するなどし、教師の指導力向上を図った。三重大学による助言や情報提供も活用しながら、全教員が研修に励むことにより、指導力が大幅に向上した。									
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	魅力ある学校づくり推進事業		
事業費（決算額）	462 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源		462	千円
	県支出金					千円	一般財源			千円
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 462千円									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	奨学金貸付事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			子どもの健全育成の推進				
	施策			子育て支援の推進				
事業開始年度	昭和36年度							
対象	高校生・高等専門学校生・専修学校生・短大生・大学生							
事業の目的	高校・大学等へ進学する生徒で学資の十分でないものに対し、奨学金を貸与し、卒業後社会に貢献させる。							
事業の内容	①事業内容 ・経済的理由により高校・大学等へ進学が困難な者に奨学金を貸与する。 ※新規貸付：9名 2,700千円 大学・専修学校等（9名）：年額300千円×9名＝2,700千円 ※継続貸付者：9名 2,280千円 大学・専修学校等（6名）：年額300千円×6名＝1,800千円 高等専門学校（2名）：年額180千円×2名＝ 360千円 高等学校（1名）：年額120千円×1名＝ 120千円 ②経費内訳 ・需用費（消耗品費）：4,875円、役務費（通信運搬費）：28,000円 貸付金：4,980,000円							
事業成果	高校・大学等へ進学する生徒に対して、奨学金を貸与することにより、保護者の経済的負担を軽減し適切な修学環境の整備を図ることで、次代の社会を担う人材育成のための機会を保障することができた。							
予算科目	款	9	項	1	目	3	細目名	奨学資金貸付事業
事業費（決算額）	5,013 千円							
財源内訳	国庫支出金		千円		その他特定財源		5,013	千円
	県支出金		千円		一般財源		0	千円
その他	その他特定財源：奨学資金貸付金返還金 5,013千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	小学校施設整備事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					学校教育の充実				
事業開始年度	令和元年度									
対象	各小学校児童									
事業の目的	小学校施設の遊具の更新、危険個所の改修及び尾鷲ヒノキ製の机・椅子を配置し、木のぬくもりに触れあう機会を提供することにより、児童の心身の健全な発達を促すとともに、快適で安全・安心な教育環境の整備を図る。									
事業の内容	①事業内容 ・ 小学校の危険遊具の更新、危険個所の改修、尾鷲ヒノキ製の組み立て式の机・椅子を整備する。 ②経費内訳 ○工事請負費：3,736,800円 ・ 矢浜小学校 すべり台（1基）設置 1,371,600円 ・ 賀田小学校 庇改修 2,365,200円 ○備品購入費：2,268,000円 ・ 賀田小学校 組み立て式木製机・椅子（60組） 2,268,000円									
事業成果	新たな遊具の更新により子どもの身体の運動能力の向上、尾鷲ヒノキ製の机・椅子の整備により地域産業と環境教育の学びを学習することができた。また本事業を通じ、児童の心身の健全な発達を促し、安全・安心な教育環境を整備することができた。									
予算科目	款	9	項	2	目	1	細目名	小学校施設整備事業		
事業費（決算額）	6,005 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円		その他特定財源		1,300 千円
	県支出金					2,268 千円		一般財源		2,437 千円
その他	県支出金：みえ森と緑の県民税市町交付金 2,268千円 その他特定財源：学校教育施設等整備事業債 1,300千円									

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 教育総務課

事業名	ふるさと教育支援事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					学校教育の充実				
事業開始年度	平成26年度									
対象	児童・生徒									
事業の目的	子どもたちが、ふるさと尾鷲に愛着を持ち続けるため、地域の人々の考え方や生き方から学んだり、自然や景観、歴史、伝統文化の体験など、郷土愛を育む「ふるさと教育」を充実させる。									
事業の内容	①事業内容 ・ 尾鷲の自然や景観、歴史、伝統文化などに触れる体験学習や地域教材を活用した学びを充実させる。 ・ 市民と共創し、地域の方々や様々な分野の達人を活用したふるさと教育を充実させる。 ・ ふるさと産業体験活動（ふるさとキャリア教育）を市民協力のもと実施する。 ・ 尾鷲以外の地域の文化や産業について見識を広め、将来の尾鷲のあるべき姿について考える。 ②経費内訳 ・ 小学校 需用費(消耗品費)：259,282円、 使用料及び賃借料(借上料)：325,000円 ・ 中学校 需用費(消耗品費)：27,759円、 役務費(通信運搬費)：17,840円、役務費(保険料)：44,540円									
事業成果	・ 地域に学び、地域で育つ学校づくりを目指し、自然・文化・伝統等を題材にした学習を展開し、児童・教職員が地域の良さを認識するとともに、地域を大切にする思いを育むことができた。また、地域の方との交流を深めることができ、充実した学習となった。 ・ ふるさと産業体験活動を通し、働くことの意義・喜び・やりがい・苦労・社会生活上の基本的なこと等を学び、自分自身の生き方、キャリアプランを考える貴重な経験とすることができた。									
予算科目	款	9	項	2 3	目	2 2	細目名	ふるさと教育支援事業		
事業費（決算額）	小学校584 千円 中学校 90									
財源内訳	国庫支出金 千円					その他特定財源 674 千円				
	県支出金 千円					一般財源 千円				
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 674千円									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名		子どもの学びと育ち育成支援事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち					
	政策			子どもの健全育成の推進					
	施策			学校教育の充実					
事業開始年度		平成26年度							
対象		園児・児童・生徒・教職員							
事業の目的		・ふるさと尾鷲を担い、創り上げていく「おわせ人」を育成していくため、教職員の指導力向上と授業改善を目指した絶え間ない研修、また、豊かな未来を切り開くための環境づくりと学校教育の充実をすすめる。 ・文化的・芸術的な催し物の鑑賞を通して、園児の豊かな感性や想像力を育む。							
事業の内容		①事業内容 ・「すべては子どもたちのために」という思いを共有・協働して、組織的に支え合う取組を推進する。 ・各教科において、話す・聞く・伝え合う・学び合うことを大切にした授業づくりを行う。 ・基礎学力の向上・定着・自己学習力の育成を目指した学習指導を推進する。 ・児童・生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを推進するため、学級満足度調査（QU調査）を活用し、「自立する力」「共に生きる力」を育成する取り組みを推進する。 ・幼稚園において、交流保育を行い、様々な友達とふれあい人間関係を広げる。また、本物の芸術（人形劇）に触れる機会をつくり、豊かな感性と想像力を育む。 ②経費内訳 ・小学校 報償費（報償費）：13,000円、需用費（消耗品費）：323,560円、役務費（保険料）：7,000円 ・中学校 需用費（消耗品費）：439,560円 ・幼稚園 需用費（消耗品費）：89,724円、役務費（通信運搬費）：11,100円、委託料（業務委託料）：159,660円							
事業成果		・QU調査を活用し、学級の子どもたちの思いや人間関係など、学級の状況を客観的データをもとに確認することにより、一人ひとりの居場所や思いをとらえ、学級経営の改善に役立てることができた。また、いじめ等の諸問題に対して未然防止の取組や迅速な対応ができた。 ・プロの人形劇団の演技を近くで鑑賞し肌で感じることができ、貴重な体験となった。また、交流行事として、大勢の友だちと一緒に観賞することができ、楽しさも増した。							
予算科目		款	9	項	2 3 4	目	2 2 1	細目名	子どもの学びと育ち育成支援事業
事業費（決算額）		小学校分 344 中学校分 440 千円 幼稚園分 260							
財源内訳		国庫支出金			千円		その他特定財源 千円		
		県支出金			千円		一般財源 1,044 千円		
その他									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	中学校施設整備事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			子どもの健全育成の推進				
	施策			学校教育の充実				
事業開始年度	令和元年度							
対象	中学校生徒							
事業の目的	中学校施設の危険個所の改修を実施することにより、生徒の心身の健全な発達を促すとともに、安全・安心な教育環境の整備を図る。							
事業の内容	①事業内容 ・平成30年度の台風により破損し、倒壊の恐れがある尾鷲中学校運動場の防球フェンスを撤去し、新たに設置する。 ②経費内訳 ○工事請負費：15,200,900円							
事業成果	防球フェンスの更新により、生徒が全力で運動を行うことができ、生徒の心身の健全な発達を促し、安全・安心な教育環境を整備することができた。							
予算科目	款	9	項	3	目	1	細目名	中学校施設整備事業
事業費（決算額）	15,201 千円							
財源内訳	国庫支出金		千円		その他特定財源		15,200	千円
	県支出金		千円		一般財源		1	千円
その他	その他特定財源：学校教育施設等整備事業債 15,200千円							

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	見守り子育て推進事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				子どもの健全育成の推進			
	施策				子育て支援の推進			
事業開始年度	平成27年度							
対象	市民							
事業の目的	本市の「定住・移住促進」としての少子化対策事業「子育てしたい・しやすいまちづくり」の一環として、PTAや各地区会、いきいき尾鷲っ子実行委員会などが行う「地域の見守り子育て」の良さを強化・強調するため、関係者や団体の取り組みを連携させることで「地域全体の見守り子育て」を推進する。							
事業の内容	地域が子どもや子育て中の世帯に関わることで、子どもの安全・安心な居場所づくりや親世代の負担の軽減等につなげる「見守り子育て」を推進する取り組みとして、地域における子ども支援・子育て支援に関わるプレイヤーやサポーターへの支援およびネットワーク化を図るとともに、各々の活動を連動させるイベント「子育てHAPPY DAY」を開催した。 ①子育てHAPPY DAY「夏休みHAPPY DAY」R1.8.11実施 301名参加 ②子育てHAPPY DAY「HAPPYワークinにゃんにゃん王国」R2.2.23実施 405名参加 ③子育てHAPPYDAY「青空図書館」 R2.2.23同日実施 120名参加							
事業成果	「子育てHAPPY DAY」は、関係各課との連携の下、地域の団体と協力し開催。子育て世代を対象としたイベントを実施し、子育て中の当事者だけではなく、地域一体となり、様々な立場の方が関わることで、「子育てを楽しみ、みんなで見守る」地域の意識づくりを進めることができた。							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	社会教育一般事務費
事業費（決算額）	47 千円							
財源内訳	国庫支出金				23	千円		その他特定財源 千円
	県支出金					千円		一般財源 24 千円
その他	国庫支出金：地方創生推進交付金 23千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	成人式事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策			生涯教育の推進				
事業開始年度	昭和33年度							
対象	20歳の青年							
事業の目的	成人式に参加することにより、大人になったことを自覚し、社会の一員として再認識してもらう。							
事業の内容	第62回 尾鷲市成人式 ・日時：令和2年1月12日（日） ・会場：尾鷲市民文化会館 ・内容：①オープニングビデオ、②開式のことば、③国歌斉唱、 ④激励のことば、⑤来賓紹介、⑥祝電披露、⑦記念品贈呈、 ⑧二十歳の想い、⑨恩師からのメッセージ、⑩祝辞、 ⑪閉式のことば （日程・内容については、新成人による実行委員会で決定）							
事業成果	新成人によるボランティア実行委員会を結成し、式典の準備・運営をしており、新成人として社会に関わっていく第一歩としての認識を新たに する機会づくりとしての効果や、式典そのものに対する意識を高めながら式 典進行をすることができた。 ・新成人169人【出席者：144人（男性85人、女性59人）、出席率85.2%】							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	成人式事業
事業費（決算額）	557 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円		その他特定財源		千円
	県支出金			千円		一般財源		557 千円
その他								

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	放課後子ども教室推進事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				子どもの健全育成の推進			
	施策				子育て支援の推進			
事業開始年度	平成19年度							
対象	市内の小学生							
事業の目的	放課後等における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを進める。地域のすばらしい自然や文化にふれながら、生活、社会、自然体験などさまざまな講座を実施することにより、学校外での学習を深める機会を創出し、子どもたちが自ら考える力や、豊かな心を育てるとともに、地域で子どもを見守り育む体制を支援する。							
事業の内容	小学生を対象に、土曜日や夏休みなどに多様な体験講座を実施。企画運営に当たるコーディネーターを配置し、地元の人を講師にした尾鷲を知ることにつながるような企画を取り入れている。 令和元年度は、特に輪内地区での講座数を増やすとともに、矢浜小学校他各小学校内での平日講座数を増やして実施した。 ○尾鷲校：田んぼで遊ぼう♪、サマースクール、放課後ひろばなど26講座36回（うち、輪内地区での講座実施4講座5回、尾鷲小内での平日講座3講座3回） ○矢浜校：卓球教室、キッズクッキング、放課後ユニカール大会など8講座19回 〈活動推進のための体制整備〉 ①運営委員会並びに実行委員会を設置、ボランティアの協力 ②家庭・学校・地域の連携強化							
事業成果	多様な体験講座を通じ、子どもたちが異なる学年・学校の子とつながりを持つなかで互いに思いやる気持ちを育み、また、地域の方々と連携して事業を進めることで世代間交流の場ともなっている。家庭だけでなく地域で子どもを育成しながら、放課後や休日の過ごし方の充実と安心・安全な居場所づくりを進めることができた。 ・講座開催回数 34講座55回（尾鷲校：36回、矢浜校：19回） ・講座参加人数 939人（尾鷲校：773人、矢浜校：166人）							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	放課後子ども教室推進事業
事業費（決算額）	1,221 千円							
財源内訳	国庫支出金				千円		その他特定財源 千円	
	県支出金				813 千円		一般財源 408 千円	
その他	県支出金：放課後子ども教室推進事業補助金 813千円							

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	公民館事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	昭和55年4月（中央公民館竣工）									
対象	市民									
事業の目的	市民のために、実際の生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するための各種事業を推進する。 また、食に関する講座では、地域の郷土料理と食文化を守り伝えることを目的に地域の方を講師に迎え開催する。									
事業の内容	講座等の開催により、市民に学習機会を提供し、教養と健康づくりの推進など、市民の生涯学習の拠点としての取り組みとして中央公民館で9の講座を開催しながら、利用者の固定化を解消するため新しい講座を開設し、あわせて利用者の増加を図る。									
事業成果	公民館講座9講座・4サークルに延べ2,131名の受講があり、制作された作品は中央公民館文化祭において展示し、450名の来場者があった。 食に関する講座では、市民の健康づくりを増進することを目的に地域の方を講師に迎えて開催し29人の参加があった。また、樹木講座には19人が参加、マイ箸文化定着事業では、地元産材である尾鷲ヒノキのマイ箸づくりを通して、尾鷲ヒノキの手触りや香りなどに親しみ、環境への配慮や食への関心などを持つ機会の提供を行い、尾鷲ヒノキマイはしコンテストには376人の出展があった。									
予算科目	款	9	項	5	目	2	細目名	公民館活動経費		
事業費（決算額）	556 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			556 千円
その他										

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	わんぱく子育て推進事業（親子天文サイエンス教室事業）									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	平成27年度									
対象	市民									
事業の目的	本市の「定住・移住促進」としての少子化対策事業「子育てしたい・しやすいまちづくり」の一環として、豊かな自然環境、歴史・文化や、地域コミュニティなど、本市ならではの特征に着眼した子育ての魅力を向上させる取り組みを「わんぱく子育て」として推進する。 また、こうした取り組みを本市の子育ての魅力として発信し、子育て世代の移住希望者向けのPR材料とする。									
事業の内容	星空が美しく天文科学館を有する本市において、宇宙や天体・星空等について親子等で体験的に学ぶ講座や観察会などの親子天文サイエンス教室を開催するとともに、中央公民館・図書館・天文科学館の三館で連携して取り組むことによって、相乗効果を図る。									
事業成果	天体や星空の魅力について学びながら、星座盤や月球儀などを作って学ぶ講座を実施。 また、図書館での天文図書コーナーの設置やメシエ天体カタログの展示など他館と連携した事業を展開。 ・「星の物語を楽しむ～星座盤作り」講座 R1.8.2実施 34人参加 ・「月球儀をつくってみよう」講座 R1.8.11実施 38人参加 ・「天文科学館で撮影したメシエ天体カタログ作成」									
予算科目	款	9	項	5	目	3	細目名	天文科学館管理運営経費		
事業費（決算額）	213 千円									
財源内訳	国庫支出金 106 千円					その他特定財源 千円				
	県支出金 千円					一般財源 107 千円				
その他	国庫支出金：地方創生推進交付金 106千円									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	天文科学館管理運営事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進			
	施策				生涯教育の推進			
事業開始年度	平成2年度							
対象	市民							
事業の目的	未来を担う青少年はもとより、広く市民に愛され、親しまれ、宇宙の美しさと神秘性を感じながら「夢と希望」を育み、生涯学習への関心を促す「場」と「機会」を提供していくことを基本に、天文及びその他の自然科学に関する知識の普及並びに文化の向上を図るための管理運営を行う。							
事業の内容	・観望会、観察会の開催 夜間観望会（金・土）、太陽の観望会、太陽黒点の観察会 特別観望会、特別夜間観望会、7惑星観望会など ・その他行事 各種体験教室、「七夕まつり」など							
事業成果	※夜間観望会をはじめとした観望会・観察会に加え、通常の観望会に見所を加え特別観望会と銘打ち利用増大に努めた他、各種講座・体験教室の開催、各小学校からの社会見学、遠足等の受け入れを積極的に行うとともにHPやSNSを利用した情報発信に努めた。 （令和元年度年間総利用者2,178名） 開館日数（162日） 夜間利用者284名 昼間利用者1,894名 ○各校来館・出前学習会事業 427名 ○特別観望会等 167名 ○講座・体験教室等 356名 ○観望会 184名							
予算科目	款	9	項	5	目	3	細目名	天文科学館管理運営経費
事業費（決算額）	2,357 千円							
財源内訳	国庫支出金 千円				その他特定財源 23 千円			
	県支出金 千円				一般財源 2,334 千円			
その他	その他特定財源：天文科学館入館料及び使用料 2千円 天文科学館情報カメラ設置貸付料 21千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	本読み子育て推進事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進			
	施策				生涯教育の推進			
事業開始年度	平成27年度							
対象	乳幼児～一般							
事業の目的	本市の「定住・移住促進」としての少子化対策事業「子育てしたい・しやすいまちづくり」の一環として「本読み子育て」を進め、読書活動を通じて、豊かな感性や心もち、想像力あふれる子どもが育つよう子育て世代を支援することにより、移住促進の魅力づくりの一助とする。							
事業の内容	「青空図書館」イベントの開催 ・親子で楽しめる絵本の読み聞かせ、本の紹介など ・読み聞かせ団体の育成を図る							
事業成果	【青空図書館】 子どもが手にとって本を選べる本の展示や、親子で楽しめる絵本の読み聞かせ、ピクニックライブラリー、ワークショップなどを行い、親子でゆっくり読書に親しむ機会となった。読み聞かせ団体の協力を得て、絵本の読み聞かせ、ワークショップを行った。 ○令和2年2月23日（日）実施 来場者120人 ・絵本展示 ・おはなしコーナー ・ワークショップ「紙であそぼう！」 紙を使っての実験や折り紙、ミニブック作り ・紙しばいやさん 小学生3年生による紙芝居 ・ピクニックライブラリー							
予算科目	款	9	項	5	目	4	細目名	図書館管理運営経費
事業費（決算額）	119 千円							
財源内訳	国庫支出金 59 千円				その他特定財源 千円			
	県支出金 千円				一般財源 60 千円			
その他	国庫支出金：地方創生推進交付金 59千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	図書館管理運営事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進			
	施策				生涯教育の推進			
事業開始年度	平成１３年度（中央公民館図書室から市立図書館へ名称変更）							
対象	市民							
事業の目的	「暮らしの中の図書館」として以下のことを目的とする。 ①市民が知性と教養を育み潤いのある豊かな生活をするために役立つこと ②明日の社会を担う子どもたちの健やかな生活の糧として役立つこと ③市民の暮らしと仕事に必要な知識と情報が得られること ④市民の生涯学習の場となること							
事業の内容	市民が必要とする知識や情報が得られるよう、資料の収集・閲覧・提供・保存を行う。窓口では、図書の貸し出しを中心に質問業務や予約、コピーサービス等を行う。インターネット予約は24時間受付。市民のリクエスト本は、購入や県内外図書館等の相互貸借を活用して応えていく。「図書館だより」「新着図書案内」等の発行や特別コーナー展示を行う。 幼児・児童向けのおはなし会等の開催。また、地域での図書団体貸出を行う。							
事業成果	新着図書案内等の定期発行、館内に毎月特集コーナーを設け、読書普及を図った。貸出冊数72,895冊、貸出人数15,194人。自宅で図書検索ができるインターネット予約の利用件数686件。 毎月１回幼稚園・保育園への絵本の団体貸出、おはなし会41回、出張おはなし会4回、プレパパママ教室2回を開催し、のべ654人が参加し、乳幼児期からの読み聞かせを推進した。また、子ども読書会9回、中学校へのブックトーク2回、宮之上小学校へのブックトーク1回及び森の中での読み聞かせ1回、夏休み手作り絵本教室1回、職業体験2回、図書館見学2回にのべ390人が参加し、小中学生への読書推進を図った。その他、本のリサイクル1回、映画会1回を開催。 地区コミュニティセンターと連携し、地区コミュニティセンターへの定期的な団体貸出を行い、図書館利用が不便な地域の住民に対しての貸出サービスを図った。							
予算科目	款	9	項	5	目	4	細目名	図書館管理運営経費
事業費（決算額）	7,688 千円							
財源内訳	国庫支出金				千円	その他特定財源		16 千円
	県支出金				千円	一般財源		7,672 千円
その他	その他特定財源：図書館コピーサービス料 16千円							

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	わんぱく子育て推進事業（自然サイエンス教室事業）								
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策				生涯教育の推進				
事業開始年度	平成27年度								
対象	市民								
事業の目的	本市の「定住・移住促進」としての少子化対策事業「子育てしたい・しやすいまちづくり」の一環として、豊かな自然環境、歴史・文化や、地域コミュニティなど、本市ならではの特徴に着眼した子育ての魅力を向上させる取り組みを「わんぱく子育て」として推進する。 また、こうした取り組みを本市の子育ての魅力として発信し、子育て世代の移住希望者向けのPR材料とする。								
事業の内容	本市の豊かな自然の中で、大学や専門家等の協力を得て自然サイエンス教室（2回）を開催し、市内の子どもや親子に学びを通じた子育ての機会を提供する。 教室では、市内の中学生が参加親子をサポートする仕組みや、市内の子育て支援団体等が講座運営をコーディネートする仕組みを構築する。								
事業成果	三重大学准教授や尾鷲市文化財調査委員などの専門家を講師に、小学生や保護者を対象とした夏休み中の講座を2回（樹木講座、化石講座）実施。当日は尾鷲中学情報生活部の生徒にサポートしてもらい他学齢交流を行うとともに、子育て支援グループと連携し、安全管理体制の強化を図った。 ・ 樹木講座 R1. 8. 26実施 10人参加 ・ 化石講座 R1. 8. 29実施 28人参加								
予算科目	款	9	項	5	目	5	細目名	一般保護事業	
事業費（決算額）	123 千円								
財源内訳	国庫支出金				61	千円		その他特定財源	千円
	県支出金					千円		一般財源	62 千円
その他	国庫支出金：地方創生推進交付金 61千円								

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	わんぱく子育て推進事業（須賀利大池活用事業）							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進			
	施策				生涯教育の推進			
事業開始年度	平成27年度							
対象	市民							
事業の目的	本市の「定住・移住促進」としての少子化対策事業「子育てしたい・しやすいまちづくり」の一環として、豊かな自然環境、歴史・文化や、地域コミュニティなど、本市ならではの特徴に着眼した子育ての魅力を向上させる取り組みを「わんぱく子育て」として推進する。 また、こうした取り組みを本市の子育ての魅力として発信し、子育て世代の移住希望者向けのPR材料とする。							
事業の内容	国指定天然記念物である須賀利大池及び小池において、専門家等の協力を得て講座を開催し、専門家が指導するフィールドワークによる学びや発見の喜び等、体験を通じた学習機会を提供する。 教室では、市内の子育て支援団体等が講座運営をコーディネートする仕組みを構築する。							
事業成果	三重県総合博物館嘱託学芸員や尾鷲市文化財調査委員などの専門家を講師に、小学生を対象とした講座を開催し、須賀利大池及び小池を探索することで、自然環境下での学び、発見を通じた学習機会を提供することができた。当日は子育て支援グループと連携しながら安全管理体制の強化を図った。 ・それ行け！尾鷲探検隊～須賀利大池周辺～ R1.12.21開催 15人参加							
予算科目	款	9	項	5	目	5	細目名	一般保護事業
事業費（決算額）	145 千円							
財源内訳	国庫支出金 72 千円				その他特定財源 千円			
	県支出金 千円				一般財源 73 千円			
その他	国庫支出金：地方創生推進交付金 72千円							

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	文化財一般保護事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策			生涯教育の推進				
事業開始年度	平成１６年度							
対象	市民・指定文化財等							
事業の目的	市内に所在する国・県の各種文化財および市にとって重要なものである市指定文化財等の保護・管理に務めるとともに、その活用を図り、貴重な地域資源として次世代に継承する。 世界遺産登録された熊野古道の保全や維持管理に努め、次世代に継承するとともに、来訪者の安全対策並びに熊野古道と周辺林野における経済活動との調整を行う。							
事業の内容	文化財調査委員とともに市内に所在する文化財等の調査やパトロールを実施するとともに、保護管理および活用等を行う。 須賀利大池については、須賀利大池及び小池保存管理委員会の意見を踏まえ、その保存管理や活用、周辺に自生する希少植物ハマナツメ等を守る取り組みを実施する。 世界遺産である熊野古道については、参詣道や説明板等の修繕、文化的景観の保全、来訪者の安全対策、熊野参詣道伊勢路環境保全指導員によるパトロール、森林施業との安全調整等の経費補填を実施する。 文化財調査委員５名、須賀利大池及び小池保存管理委員会委員１０名 文化的景観保全審議会委員１１名、熊野参詣道伊勢路環境保全指導員４名							
事業成果	文化財調査委員や三重県、専門家と連携し、文化財パトロールを行うなど市内文化財の保全を行うとともに、文化財の周知・活用等として郷土室の２回の企画展において、尾鷲の風土記や熊野古道の展示を行った。 熊野古道については、環境保全指導員による定期点検をはじめ、環境保全指導員や熊野古道保存会・語り部などと連携し、古道等の補修（橋基礎、法面、石畳等）や老朽化した木製の１００ｍ道標の更新など、世界遺産である熊野古道を管理・保全し、来訪者等の通行の安全性や利便性の向上を図った。 また、三重県が実施する世界遺産１５周年を記念するイベントへの協力等を行い、市内外に対し熊野古道の魅力や価値、保全の大切さを周知・啓発する機会となった。 須賀利大池及び小池については、現地調査を実施し、大池でのハマナツメの生育状況調査、獣害防止柵の確認等を行った。							
予算科目	款	９	項	５	目	５	細目名	一般保護事業
事業費（決算額）	１,５２８千円							
財源内訳	国庫支出金			千円		その他特定財源		４７５千円
	県支出金			千円		一般財源		１,０５３千円
その他	その他特定財源：熊野古道保全整備事業補助金 ４７５千円							

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	郷土室保存運営事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	平成7年度									
対象	市民・尾鷲組大庄屋文書（県指定）・須賀利浦方文書（県指定）・大曾根浦方文書（市指定）・矢浜村方文書（市指定）・堀北浦庄屋文書（『尾鷲組大庄屋記録』中）・中村山土井家文庫（市指定）・民具・標本									
事業の目的	市域の人文・自然両分野にわたる諸資料を郷土の文化遺産として調査・収集・保存するとともに、公開・展示するなどして一般の活用を図り、郷土の文化・文化財を守り伝えることの大切さを普及することに努める。									
事業の内容	県指定文化財である尾鷲組大庄屋文書及び須賀利浦方文書、市指定文化財である矢浜村方文書や中村山土井家文庫等の文化財をはじめとした収蔵資料を適切に維持保存するため、専用薬剤による燻蒸処理等を行う。 また、これら市域の諸資料の調査や、その価値や大切さ、郷土との関わりなどを一般に分りやすく伝えるための企画展示等を数か月ごとに実施するなど、地域の文化・文化財を広く紹介することにより、郷土の伝統や歴史の継承及びおわせ人の育成に努める。									
事業成果	前年度に引き続き、収蔵資料や市民からの寄贈資料を紹介する企画展示を行い、資料の活用を図り、尾鷲小学校3年生を対象とした民具の見学も引き続き実施し、学校と連携しながら、郷土文化の伝承を行った。さらに、曾根町からの依頼を受けて、曾根弾正をテーマとした出前トークも実施し、近年新たに見つかった土器資料のみならず、市外に残る古文書資料等にも注目して、本市の歴史を明らかにしようと試みた。 所蔵古写真アルバムの整理及び一覧表作成は継続し、前年度以上に外部からの古写真に関する問い合わせに正確かつ迅速に回答できるようになった。また未整理の近世・近代文書資料や民具等の目録及び資料カード作成も進めており、その成果を企画展示で還元するという事業サイクルが定着しつつある。									
予算科目	款	9	項	5	目	6	細目名	保存運営事業		
事業費（決算額）	1,585 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			1,585 千円
その他										

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	少年センター事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					子育て支援の推進				
事業開始年度	昭和５８年度									
対象	市民・青少年									
事業の目的	次代を担う青少年が、心身ともに健やかに成長し、豊かな人間性を身につけられるよう、関係機関・団体・地域社会が連携し、教育的配慮をもって補導活動を推進することによって、青少年の非行防止を図るとともに、その健全育成に努める。									
事業の内容	・補導活動の積極的推進（街頭補導、不審者等情報の収集と対応ほか） ・指導活動の推進（青少年の問題行動への指導や少年らへの支援ほか） ・環境浄化活動の推進（不良な環境の早期発見と排除ほか） ・相談活動の充実（学校や相談機関との緊密な連携、個別対応ほか） ・啓発活動の推進（関係機関や団体と連携した啓発活動ほか） ・青少年健全育成事業の推進（町民会議との連携活動、いじめ防止ほか）									
事業成果	「地域の子どもは、地域で育てる」という考えを基本に、自主指導や青パト巡回をはじめ、関係機関・団体からなる非行防止ネットワーク（オツwaseふれ愛隊）や少年指導員の会等との連携による地域密着型の非行防止・犯罪防止活動を実施するとともに、尾鷲市青少年育成市民会議や各町民会議と連携し、健全な青少年の育成と指導者の養成を図った。									
予算科目	款	9	項	5	目	7	細目名	少年センター一般事務費		
事業費（決算額）	746 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			746 千円
その他										

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	文化会館管理事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	平成５年度									
対象	市民									
事業の目的	市民の文化、教育、福祉、地域の産業振興等の増進に資するため、運営を行う。									
事業の内容	尾鷲市民文化会館の管理運営を指定管理者へ委託及び施設の適切な維持管理のため修繕を行う。									
事業成果	施設の適切な維持管理のための修繕として、小ホール漏水修繕、浄化槽配管修繕、ピンスポットライト修繕、調光盤内冷却ファン交換修繕等を実施（計3,950,100円）。 浄化槽配管修繕に伴う浄化槽内清掃作業も併せて実施。 その他、指定管理者である「公益財団法人尾鷲文化振興会」において、コンサート、映画、せぎやま倶楽部の洋楽発表会や絵画展、夢舞台発表会等の自主事業及び共催事業として、全国尾鷲節コンクールや教育文化事業などを実施。（指定管理料50,268千円）									
予算科目	款	9	項	5	目	8	細目名	文化会館管理運営費		
事業費（決算額）	54,584 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			54,584 千円
その他										

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	スポーツ振興事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯スポーツの推進				
事業開始年度	平成５年度									
対象	市民									
事業の目的	子どもから高齢者まで、初心者から上級者まで、地域の誰もが年齢、性別の隔たりなく、興味とレベルに応じたスポーツ活動ができる機会を拡充し、いつでも・どこでも・誰とでもスポーツのできる場を提供する。 また、スポーツ活動を活性化させるため、スポーツ少年団を通し育成を図るとともに、スポーツ協会加盟団体等の活動を支援する。									
事業の内容	1. スポーツ教室等の開催（テニス教室など） 2. スポーツ活動への支援（少年・成年スポーツ活動、スポーツフェスティバル、他市町公営プールの利用支援など） 3. スポーツ事業の委託（市町対抗駅伝参加事業）									
事業成果	尾鷲市スポーツ協会・尾鷲市スポーツ少年団と連携し、各スポーツ大会の開催、三重県市町対抗駅伝大会への参加等、さまざまな事業に対し支援を行った。 そのほか、尾鷲市他市町公営プール利用補助金交付（補助金額4,577,656円）により、市民のスポーツ振興等を図った。									
予算科目	款	9	項	6	目	1	細目名	スポーツ振興事業		
事業費（決算額）	9,357 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源		1,862	千円
	県支出金					千円	一般財源		7,495	千円
その他	その他一般財源：一般コミュニティ助成事業助成金 1,400千円 学校開放使用料 462千円									

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	三重とこわか国体活動費									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯スポーツの推進				
事業開始年度	平成３０年度									
対象	市民									
事業の目的	2021年に開催される「三重とこわか国体」に向け、本市での開催が決定した正式競技およびデモンストレーション競技の普及・振興を行う。 また、国体の円滑な開催のため、国体実行委員会の運営を行う。									
事業の内容	1. 国体実行委員会等の設立・開催等 2. 正式競技に係る取り組み（OWS大会協力・茨木国体視察ほか） 3. デモンストレーションスポーツの普及・振興（ユニカール・ウォーキング・カップ） ※カップ普及推進事業（みえ森と緑の県民税市町交付金） ＝国体でのカップ競技の実施および全国規模大会を継続して行っている岩手県住田町の取り組みを視察し、国体に向けた普及啓発および大会運営について学ぶとともに、競技会を実施し普及促進を行う。									
事業成果	国体実施に向け、実行委員会総会及び専門委員会を行った。茨城国体のオープンウォータースイミング競技及び住田町のカップジャパンオープンの視察を実施。また、ユニカールの体験会を幅広い世代で開催。カップについても、いきいき尾鷲っ子でのカップ教室や市内の小中学校の先生を対象としたカップ教室を開催し競技の周知と普及・促進を図った。 ※カップ普及指導員養成講習会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止。									
予算科目	款	9	項	6	目	4	細目名	三重とこわか国体活動費		
事業費（決算額）	863 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					471	千円	一般財源		
その他	県支出金：みえ森と緑の県民税市町交付金 471千円									

Ⅲ 教育委員会の活動状況

１．活動状況

① 尾鷲市教育委員会委員選任状況

(令和２年３月３１日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	出 口 隆 久	自：令和 元年１０月１１日 至：令和 ４年１０月１０日
教 育 長 職務代理者	森 下 龍 美	自：平成３０年１０月 １日 至：令和 ４年 ９月３０日
委 員	北 裏 佳 代	自：令和 元年１０月 １日 至：令和 ５年 ９月３０日
委 員	大 門 利江子	自：平成２９年 ４月 １日 至：令和 ２年１２月 ７日
委 員	濱 口 精 幸	自：平成２９年１０月 ９日 至：令和 ３年１０月 ８日

*教育長任期：３年 教育委員任期：４年

② 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、毎月１回の定例会のほか、必要に応じて臨時会を開催し、教育委員会の議決事項等について審議を行っています。

定例会１２回、臨時会１回

③ 審議状況

３３件 ※報告事項は２２件

④ 審議された議案

内 容	件 数 (件)	内 容	件 数 (件)
条令関係	６ 件	人事関係	３ 件
規則関係	７ 件	施策、計画関係	５ 件
要綱関係	２ 件	予算関係	６ 件
訓令、方針関係	２ 件	その他	２ 件

⑤ 教育委員会会議以外の主な活動

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、学校訪問、各種行事への参加、他市町教育委員との合同研修会など、様々な活動を行っています。

令和元年6月24日、6月27日の2日間、教育現場等の現状を直接見聞する機会として、授業や集団での遊びの様子、特別支援教室などの施設を見学し、校長、教頭、教職員と意見交換を行いました。訪問は毎年実施しており、小学校5校、中学校2校、幼稚園2園を訪問しました。

各学校の取り組みについて把握するとともに、実際に子ども達が小中学校や幼稚園で、いきいきと活動する様子を見学することで、教育委員会による効果的な支援を実施することができると考えています。

令和元年8月30日には、教育委員会教育委員等を対象にした三重県市町教育委員会連絡協議会、三重県市町教育長会主催の「三重県市町教育委員会教育委員等研修会」への参加、10月24日には、県教育委員会、市町等教育委員会、小中県立学校等の教育関係者が共通の課題意識のもと、子どもたちの目線に立った教育実践と学校づくりを進めていくため、三重県教育委員会、三重県市町教育委員会連絡協議会主催の「三重の教育談義」に参加しました。

IV 第三者評価（学識経験者の知見の活用）

1. 第三者評価委員

名 前	備 考
山本 樹	元宮之上小学校長
湯浅 祥司	尾鷲市社会教育委員長

2. 第三者評価結果について

【山本委員の評価】

（1）九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

園児・児童・生徒の通園・通学ばかりでなく、地域間交流等の移動手段としても活用できることは、園・学校にとっては、運営上、大きな利点があります。今後とも、より安心・安全な運行の確保を図っていくため、「尾鷲市スクールバス運営協議会」で、学校や保護者等の声を聞きながら、定期的に協議・検討を進めてください。また、新型コロナウイルス感染防止対策の面からも万全を図っていただきたいと思います。

（2）共創・共育・共感推進事業

特別支援学級の在籍者が増加している状況の中で、各学校の状況に応じてサポーターを配置していただいていることは、個に応じた質の高い支援を行っているという観点から、貢献度は非常に大きなものがあると考えます。同様に、学びのサポーターも、個々のニーズに応じたきめ細かな学習を提供していく上で、効果をあげていると考えます。図書館司書についても、配置校においては、図書館の環境整備及び児童生徒の読書への興味関心の向上を図るため、今後とも継続・充実を期待します。

（3）魅力ある学校づくり推進事業

まだまだ始まったばかりの事業ですが、児童生徒の英語への興味関心や学力の向上に向けてすでに効果が出てきていると考えます。今後は、三重大学やALTとの連携を深め、教材の活用の仕方や指導方法について研究・実践を積み重ね、さらに効果を上げていくことを期待します。

（4）奨学金貸付事業

利用者があってこそその本制度であるので、昨年度より利用者が増加傾向にあることは、広報活動強化の成果の表れであると評価できます。令和2

年度は、コロナ禍の影響で同制度の意義も高まるのではないかと考えます。保護者への周知とより利用しやすい制度の改善を図っていただきたいと思います。

(5) 小学校施設整備事業

令和元年度をもって、小学校への遊具の設置が完了したことは喜ばしいことです。遊具は、児童が日常的によく利用するものであるので、今後とも定期的な点検を励行し、安全の確保を図っていただきたいと思います。

その他、施設全般についても同様に、継続して安全確保に努めていただきたいと思います。また、尾鷲ヒノキ製の机・椅子の整備も、計画的に拡充して行ってください。

(6) ふるさと教育支援事業

様々な分野での学習や体験活動を通して、児童生徒がよき先輩に出会い、また触れ合って、ふる里尾鷲を身近に感じ、愛着を感じるよい機会であり、「おわせ人」づくりにつながる貴重な事業であると考えます。予算面での充実を図りながら今後とも継続して行ってください。

(7) 子どもの学びと育ち育成支援事業

学級満足度調査により、学級の状況を客観的に把握することができ、個々の児童の実態や学級全体として担任が指導していく上での強みと弱みを的確に提示してくれる貴重な資料であると考えます。そのため、学級経営への貢献度はたいへん大きく、今後も継続していくべき事業であると考えます。

幼稚園での取組も、文化的・芸術的な催し物に直接触れる機会の少ない当地方にとっては貴重なものであり、園児の情操を高め、文化芸術への興味関心を高めるよい機会だと思えます。

(8) 中学校施設整備事業

高額な予算をかけて、尾鷲中学校の防球フェンスを新たに設置したことは、生徒や地域住民の安心・安全を確保するという観点から大いに評価できるものです。今後も、定期的に施設等の点検を行い、計画的に整備を実施し、安心・安全の確保に努めていただきたいと思います。

(9) 見守り子育て推進事業

「子育てHAPPY DAY」への参加者数から、当事業への市民の期待度の高さが窺えます。地域が子育てに関わり、支援していくことで、子育てに対する不安の解消と安心・安全な町づくりを推進して行ってください。

(10) 成人式事業

新成人で組織する実行委員会形式で、新成人が主体的に式典の計画・準備・運営を行うことは、新成人にとって魅力ある成人式づくりという観点から意義の大きいことであると思います。今後もこの方式を継続し、進化させていくことを期待します。ただ、本年度の成人式については、コロナウイルス感染防止対策との関わりも考慮に入れ、状況を判断しながら、開催の有無も含めて、式典の開催方法を十分に検討していく必要があると思います。

(11) 放課後子ども教室推進事業

本事業は、子どもたちにとって魅力的な体験活動の場となっており、人気の高い事業であると捉えています。放課後児童クラブとの連携や一体化という課題もあるということであるが、「子どもたちにとってどうしていくことがいいのか」ということを中心に据えて、継続・改善を図っていただきたいと思います。

(12) 公民館事業

高齢化社会が進行する中、市民の生きがいづくりを推進し、文化的な素養の向上を図るという観点から、欠かすことのできない事業であると考えます。今後も市民にとってより魅力的な講座の開設を目指すとともに、参加者の固定化や講座のマンネリ化を避け、広く多くの市民が参加できるよう今後も改善を図っていただきます。

(13) わんぱく子育て推進事業（親子天文サイエンス教室事業）

子どもたちが興味関心を持って取り組むことができるよう、体験的な活動も取り入れながら、創意工夫した講座開設に向けて努力されていると思います。今後も、三館連携を推進しながら、子どもたちの天体への興味関心を誘う、魅力ある講座の開催を期待しています。

(14) 天文科学館管理運営事業

尾鷲の星空の美しさを生かして、観望会やイベントを開催し、天文を通しておわせ人づくりに寄与していることは評価できます。小学校への出前授業は、美しい星空に子どもたちを誘い、自然科学への興味関心を高める上で、意義深い取組であると思います。今後とも魅力ある事業を展開していただき、来館者数の増加も図りながら、尾鷲ならではの取組を期待します。

(15) 本読み子育て推進事業

幼少期から本への関心を培うことは大切であり、各家庭で親が子に行う読み聞かせは、その格好の機会となります。青空図書館の取組は、戸外において、ピクニック感覚で気軽に参加できる健康的な事業であり、読み聞かせ習慣化への契機づくりとして大いに評価できます。今後も内容について吟味・工夫しながら継続して開催されることを期待しています。

(16) 図書館管理運営事業

インターネット予約が24時間受付できることは、図書館を利用する上で便利になったと思います。また、継続して子どもたちを対象とした様々な企画や活動を展開し、読書への関心を高めていこうとする姿勢は大いに評価できます。小中学校へのブックトークの拡大や、地区コミュニティセンターへの定期的な団体貸し出しなど、さらに展開していただけたらと期待します。

(17) わんぱく子育て推進事業（自然サイエンス教室事業）

尾鷲の自然の豊かさを実感しながら、科学的な体験学習ができる貴重な学びの場となっていると思います。小中学生の交流が図られたことも評価できます。「いきいき尾鷲っ子」との連携を図っていくことも望ましいことだと思います。尾鷲の様々な自然を活用した魅力ある講座の展開を期待します。

(18) わんぱく子育て推進事業（須賀利大池活用事業）

参加した子どもたちは、ワクワクしながら雄大な尾鷲の自然を感じ取ることができたのではないかと思います。今後は、「自然サイエンス教室」や「いきいき尾鷲っ子」との連携も視野に入れて展開していただきたいと思います。

(19) 文化財一般保護事業

本市の貴重な文化財や自然の保全に欠かすことのできない重要な活動です。熊野古道の補修や道標の更新ができたことは大きな成果だと思います。今後も、専門機関等と連携しながら、着実に保護活動を進めていただきたいと思います。

(20) 郷土室保存運営事業

企画展や出前トークなど、資料の公開や尾鷲の歴史について市民の認識を深めようとする取組は、今後も工夫・改善を図りながら進めていただきたいと思います。古写真や未整理の資料についての整理も、継続してす

めていただき、企画展等での成果の公開も期待しています。

(21) 少年センター事業

本センターの地道な取組は、本市の子どもたちの健全育成、安全確保、非行防止等の面で、大いに貢献しており、評価できます。今後も市民や関係諸機関と連携を図りながら、安心・安全の確保に努めていただきたいと思います。

(22) 文化会館管理事業

文化・芸術に触れる機会の少ない本市において、文化会館の存在意義には大きいものがあります。様々な年齢層に対応した、市民にとって魅力ある事業を、今後も企画・開催していただきたいと思います。文化会館も開館して25年以上が経過しておりますので、今後も継続して、計画的な修繕や環境整備をお願いします。

(23) スポーツ振興事業

他市町公営プール利用補助金は、市民のスポーツ振興に大きく寄与したと評価できます。今後も関係諸団体と連携し、各種スポーツ大会の開催や支援を行い、生涯スポーツの充実を図っていただきたいと思います。

(24) 三重とこわか国体活動費

三重とこわか国体開催に向けて、準備が順調に進んでいる現在の状況を維持し、コロナ禍で先行きが不透明な状況もあると思いますが、今後も大会成功に向けて準備活動に取り組んでいただきたいと思います。

【湯浅委員の評価】

(1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

小学校が統合されたことで、いくつかの業務が変更となりました。給食配送業務がなくなり、園児も利用するようになったため添乗介助業務が増えました。変化、課題等に対応するため「尾鷲市スクールバス運営協議会」を設立するなど、適正な運営がなされており、評価できます。311号は、大雨時等により崩落がみられることから、突発事態に十分に注意して運用していただきたいと思います。

(2) 共創・共育・共感推進事業

尾鷲市教育ビジョン後期推進計画の2年目にあたります。教育のターニング・ポイントにあって、分かりやすい形で体験してもらっていると考えられます。現在は学校介助員、学びのサポーター、図書館司書を配置しており、市独自の特徴ある事業であるため、今後とも継続していただきたいと思います。

(3) 魅力ある学校作り推進事業

2014（平成26）年の観光立国政策により、コロナ禍による臨時休業はありましたが、今後も英語教育等の魅力ある学校運営が求められています。熊野古道中辺路等と比較するとまだ少数ですが、伊勢路の外国人訪問者は増加しています。実際に英語で問いかけられる機会も増えるため、三重大学との「共創」による、英語学習をハブとした各校の「共育」に期待します。

(4) 奨学金貸付事業

卒業後の返済額が、マスコミで話題になることが多いようです。アメリカの大学生は平均750万円を借りている、という報道がありました。借りることは恥ずかしいことではなく、社会人としてデビューする関門と考えたいものです。奨学金貸与額の年額30万円では足りないケースでは、他の奨学金も視野に入れて検討するかと思われますが、返済計画を十分に立てて利用して欲しいです。2005（平成17）年度から開始した本市の償還免除制度は、もっと周知されても良いと思います。貸付条件は昔より随分と緩和されましたので、申請しやすくなっていると思われます。

(5) 小学校施設整備事業

賀田小学校は台風による風害で、非常に高い場所にある庇が損傷してしまいました。修理が完了したため、安全安心な学校生活を送ることができています。統合後の授業では、多人数による教育効果も期待されます。施設整備が集中的に進んでおり、評価できます。

危険遊具が撤去され、新しい安全基準に合格した遊具が使用されています。日常点検も必要ですので、定期的に進めていただきたいと思います。

(6) ふるさと教育支援事業

ずっと地元で暮らしていると、どれほど素晴らしいところに住んでいるかを実感することはできません。幼い頃から「尾鷲よいとこ」を実体験することで、自覚することができるようになります。地元のよさを十分に伝えることで「おわせ人」意識を成長させ、高齢化が進む当地方が、都会で学んだ若い力の活躍の舞台になって欲しいものです。体験豊富な前期高齢者等の皆さんの活躍の場にもなり、生きがいにもつながっていることから、お互いに楽しみながら参加してもらえよう継続していただきたいと思います。

(7) 子どもの学びと育ち育成支援事業

QU調査は10年程前に考案された、有効な学校満足度のアンケート調査だと聞きます。プロット図化等により分析することで、傾向を理解し、事象に対応しやすくなるといえます。調査結果は、特定の教員ではなく複数の教員で検討したアクション（行動）をしていただくことを期待します。早い時点で状況を把握することにより、問題化する前に対応することができ、それを活用されていることは、高く評価されていると思います。

幼稚園児にプロの芸術を見せることは大切です。大人が気づかないような細部などところまで鑑賞しており、情操教育に大きく寄与していると思います。

(8) 中学校施設整備事業

防球フェンス（ネット）は近隣住宅にボール等が飛来しないようにする特殊工事で、メーカーが工事することもあります。23年程前に少し関与した時と比較すると、選択肢も増え、製品が進歩しているようです。工事費はまとまった額になりましたが、ほぼ妥当かと思われます。飛球を気にすることなく、オリンピック・国体イヤーに向けて、思い切り運動に集中し、成果を上げて欲しいと思います。

(9) 見守り子育て支援事業

地域の前向きな皆さんを捉えて、限られた予算で立派に活動していると思います。地域の団体や各課が連携した手法が、今後必要になってくる事例は増加すると考えられます。1本では弱い木を束ねることによって、丈夫な樹を造っていくことは、市の教育ビジョンに示されている「共創・共育・共感」のイメージとも合致します。天候や外因（コロナ渦等）によって実施が左右されますが、なるべく多くの部署の参加を促し、今後も認識共有につなげていってくださることを期待します。

(10) 成人式事業

式は晴天に恵まれ、すっかり見慣れた尾鷲三田火力発電所の煙突とのスナップも、今回が最後になりました。自主運営（実行委員会）形式も定着し、安定感がありました。新成人の「二十歳の想い」の発表では、自分の言葉でしっかりと述べており、本人にとっても良い思い出になったことでしょう。例年と違ったのは、舞台上で記念撮影が終わったあと、実行委員が自作の大型旭日旗を持ち出して記念撮影していたことでした。書かれていることに問題はなく、改めて写真を見ると光条が15本で1本足りないとか、太陽が中央に描かれているという点で、別物と判断すべきかもしれません。煙突は見られませんが、今後は少し賑やかな演出（大漁旗の枚数を増やす等）が必要と思われます。

(11) 放課後子ども教室推進事業

普段自分たちで体験することが難しいことを、本事業で学べることは素晴らしいことです。その記憶は大人になっても消えることはなく、「おわせ人」として育ってくれることでしょう。尾鷲海洋深層水、梶賀のあぶり、三木崎灯台や椿の群生地（遊歩道）など、地元には身近なところに体験できる素材がたくさんあります。ミニ体験ができる事業を増やしていただくことを期待します。

(12) 公民館事業

数年前から1階ロビーのレイアウトが変わり、人の行き来が増えてきました。公民館は立地条件に恵まれており、イベントを多く開催することで利用者の増加が見込まれます。

「尾鷲 コンテスト」で検索すると、「マイ箸コンテスト」の結果が多く見られます。地元の方の取材源ではなく、東京発データであることに注目したいと思います。学校の課程に組み込んだことが大きく、「おわせ人」づくりに効果が大きい事業です。

(13) わんぱく子育て推進事業（親子天文サイエンス教室事業）

多くの天文館施設の中で、尾鷲市立天文科学館は異色の運営をしています。他ではプラネタリウムがあり、宿泊施設や食堂が併設されることも多く、それらが無い当館は独自の運営を行ってきました。その一つに、来館者によるメシエ天体カタログ作成があります。これは他に例がなく、国立天文台副台長からも評価をいただきました。全国にある450を超える類似施設、その中でも大型望遠鏡を設置する120を数える施設の活性化にも、少しは寄与すると思われれます。本事業により、自然を最大限に使った「おわせ人」の育成目標へ前進していると評価します。

(14) 天文科学館管理運営事業

30周年を迎える天文館活動になります。開館当初には全国から視察があり、「尾鷲」に追いつけ追い越せと目標とされた時期がありました。自治体天文台も450ヶ所を超え、世界的にも珍しい天文台列島が出現しました。館では2010（平成22）年からホームページ（HP）、2018（平成30）年からSNSで情報発信をしています。HPは封書、SNSは葉書に例えられます。県下でも早くからHPを立ち上げましたが、書き込み等はできませんので、反応は分かりません。両方に良い面があり、メシエカタログの発表以降、尾鷲発の天体写真を検索すると、数枚の写真であった結果が百枚の写真となり、大きな反響がありました。更なる地道な活動を期待します。

(15) 本読み子育て推進事業

本に集中できる幼いときから、本に親しむ機会を与える事業です。青空図書館は定着してきており、図書館の一大イベントへと成長してきました。ここから、もしくはその延長線上で一生の愛読書を発見することになれば、最高の催しであるといえるでしょう。バリ島のリゾートホテルの中庭で、リクライニングチェアーに横になって読書していた人々を思い出します。ローカルでその場限りの目標ではなく、もっと大きな幅を感じられる事業で、今後も期待、注目しています。

(16) 図書館管理運営事業

昨年に比べて順調に増加していた入館者数は、コロナ禍による入場制限で伸びが止まりました。それにもかかわらず、貸出冊数は72,895冊と過去5年間の最高数を記録しています。団体への貸出冊数が順調に増加しており、運営の工夫が功を奏している例です。特別企画や協力事業・ブックトーク、職場体験も行っています。また、読書活動推進を着実に進めています。コロナ禍で、次年度の活動計画を立てることは困難となりました。

が、コロナ渦による館の一時閉館を聞いて集まった大勢の人々の姿から、禍転じて福となす方法は必ずあると思います。

(17) わんぱく子育て推進事業（自然サイエンス教室事業）

「尾鷲は自然が豊か」といわれても、本市しか知らない子どもたちにとっては、何が豊かなのか理解できないことも多いでしょう。靴で踏んでいる石や植物が何なのか、分からないこともあります。まずは専門家の講習会を開催して受講する。その際、現在のように小学生親子を中学生がサポートする方法は、双方の成長につながり、中学生が自分の立ち位置を再認識するのに、大変役に立ちます。三重県では地域学校等協働活動推進委員会を立ち上げて、学校・家庭・地域の連携を進めていますが、目的が「定住・移住促進」の本事業も、根本部分では共通しています。

(18) わんぱく子育て推進事業

市の中心部からわずか10kmのところに、貴重な国指定天然記念物がある町は果たしてどれほどあるのでしょうか。須賀利大池は交通の便が悪いため、訪問者もほとんどなく、太古のままの姿を残している、いわば尾鷲のジュラシック・パークのような場所です。現地は大人数の受け入れは不可能であるため、本事業のように少人数で丁寧な説明を受けられることは好ましいことです。一大ブームを企画するのではなく、現在のような少人数規模で継続的に、しかし確実に体験者を増やしていただきたい事業です。

(19) 文化財一般保護事業

熊野古道は2004（平成16）年7月7日の世界遺産登録から15年が経過し、昨年度は多くの記念行事が行われました。1994（平成6）年3月の「東紀州地域活性化調査報告書（三重県）」から本事業は始まっています。一昨年、田辺から伊勢まで単独踏破された全国社会教育連合前会長から「尾鷲周辺の紀州路には、欲しいところに案内板がある」と、お褒めをいただきました。また、「現在は和歌山県側ほど外国人は歩いていないが、今後増加していくだろうから、その対策も必要である」とアドバイスをいただきました。限られた予算ではありますが、期待されています。文化財等については、最低年1回の調査・パトロールが必要です。

(20) 郷土室保存運営事業

古写真の照会に対して迅速に対応できるようになってきたことは、大きな成果です。さらに写真や資料などがPDFで検索できるようになれば、究極のデータ・ベースとなります。

尾鷲市史年表は市政40周年記念として、平成6（1994）年版が発行されました。その後30年近く経過したため、次の版の発行には時間があるかもしれませんが、準備をお願いしたいと思います。全体を1冊にするのではなく、200～300頁の増補版の発行を検討されてはいかがでしょうか。

（21）少年センター事業

昨年は年間延べ200回以上の補導等活動をされ、指導案件はほとんどなしという、大きな成果をあげています。一方で不審者情報が減らず、車を使った不審者が増えてきました。不審者が出ると学校から保護者に連絡が回る仕組みもできており、対応は大変でしょうが安心できます。車を使った事例では、本人にとっては緊急事態のため、頭の切り替えが大変ですが、児童・生徒にはぜひナンバープレートの一数字でも、観察する習慣をつけて欲しいものです。2020（令和2）年度からの定期夜間巡回の休止も、近年の成果から妥当と思われるます。

（22）文化会館管理事業

1993（平成5）年の開館から25年以上が経過しました。限界を迎えた設備関連の修繕が、令和元年度以降増加してきました。せぎやまホールは、東紀州における大型文化会館で期待される面も大きいものがあります。機器類の経年変化は避けることができませんが、今後の目安を得るため、実際の稼働時間を記録しておく必要があるのではないのでしょうか。

コロナ渦による自粛も見通しが立たない中、ソーシャルディスタンスを保って（定員を減らして）事業成績を上げる、という前代未聞の課題が現実のものとなってきました。踏ん張りどころです。

（23）スポーツ振興事業

「ライフステージに応じたスポーツ機会の提供」、「ウォーキング等健康づくりの推進」等が求められていますが（スポーツ振興計画・基本施策）ほぼその方向に進められています。

ウォーキングは2015（平成27）年9月の「尾鷲市スポーツ振興計画」からはじまります。インターネット検索をすると、熊野古道があるので「尾鷲、ウォーキング」が多数ヒットします。すでに尾鷲は先進地になっています。生涯スポーツの一環として、地元住民等へ周知していきたいものです。

(24) 三重とこわか国体活動費

国体正式競技となる、「OWS 三重オープン2019 尾鷲」は、昨年7月末、晴天下で行われました。のびのびと競技する若者を見て、感慨深いものがありました。三木里海水浴場はリゾート法下で整備された、尾鷲第一号箇所です。最高水質である「AA」の海水浴場に諸施設が整備され、全国屈指の競泳場といえます。これを機に地元を全国に売り出していきたいものです。何度も訪れるチャンスではありません。

クップは、スウェーデン語の「薪（まき）」を意味しており、バイキングの時代に生まれたスポーツと言われており、「薪」―「尾鷲ヒノキ」、「バイキング」―「海」と、尾鷲とつながっていくイメージがあります。馴染みのない競技のため、体験会を開いていただきよかったです。

来年の開催に向け、準備が着実に進んでいることを評価します。

V 教育委員による評価

【教育委員の評価】

(1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

令和元年度は、三木小、三木里小が賀田小へ統合されたことから、スクールバスの運行が増え、地域によっては長時間の乗車時間となりました。熊野尾鷲道路の利用の是非や雨天時の待合場所など、いくつかの課題がありましたが、「尾鷲市スクールバス運営協議会」での協議やスクールバス乗車時の避難訓練により解決が図られ、大きな問題もなく運行されています。また、地域間交流の移動手段としても活用され、郷土愛を育む教育にも重要な役割を果たしている事業でもあります。今後も、課題解決に向けた方策等を運営協議会で協議し、安全・安心な通学手段の確保とともに、スクールバスが少しでも快適な空間となるように取り組んでいただきたいと思います。

(2) 共創・共育・共感推進事業

近年、支援を必要とする児童生徒の増加傾向により、定数に近い子どもが在籍している支援学級もあることから、担任1名では十分な支援が困難な状況になっています。特別支援教育サポーター(介助員)の配置については、その必要度は極めて高まっており、在籍児童生徒の個性、特性を踏まえ、教育的ニーズに合わせたきめ細やかな支援を十分に果たしています。学びのサポーターの配置については、授業内容の理解に時間を要する子どもたちなどを支援し、基礎学力の定着、向上に貢献しています。また、学校図書館司書の配置については、学校図書館は学校における学習センターの機能をも有する場所でもあり、その管理・運営には専門的力量を求められることから、司書教諭との連携、市立図書館との連携を一層深め、児童生徒の読書意欲を高めるとともに、教科学習にも活用しやすい学校図書館になるよう期待します。

(3) 魅力ある学校づくり推進事業

賀田小学校と輪内中学校を連携校として、9ヶ年の一貫した英語教育を進めるため、三重大学との共同研究を実施した1年目でした。児童生徒は英語を話すことに楽しさを感じており、躊躇することなく言葉が出ていますが、これは英語学習において極めて重要です。小学校では「英会話たいそう」、中学校では「文化発表会」での英語による地域紹介など、子どもたちにとって取り組みやすい魅力的な実践が行われています。

令和2年度は、小学校での英語教育が本格的に実施されることから、英語教育のモデル校として9ヶ年を見通したカリキュラムの開発、また公開授業や研究発表会等を開催し、2年間の成果を市内の他の学校へ広げていただくことを期待します。

(4) 奨学金貸付事業

本市以外にも奨学金制度は数多く、その内容は、公、民、給付、有利子貸与、無利子貸与、金額、減免制度等さまざまであり、本市の奨学金利用者の多くが、自分にとって利用しやすいものをいくつか併用しています。年度により貸与希望者の増減が大きいことから、特色である償還免除制度（市内の地場産業、事業所へ5年以上就労した場合償還が免除される）等の周知を強化するとともに、今後も貸与希望者の増減の推移を見ながら、制度の見直しの是非等を含めて検討する必要があります。

(5) 小学校施設整備事業

小学校遊具の点検、危険遊具の撤去・更新が終了し、子どもたちが安全に思いきり遊ぶことができ、充実した学校生活を過ごせるようになったことは評価できます。今後も学校の協力を得ながら、定期的な点検を行い、安全を確保する必要があります。

また、賀田小学校における尾鷲ヒノキ材の机、椅子の整備は、子どもたちが木のぬくもりに触れ、地場産業と環境教育を学習することができたことは評価できます。

教育施設は老朽化が進んでいることから、優先順位を付け整備を継続し、より安全安心な教育環境を提供していただきたいと思います。

(6) ふるさと教育支援事業

本事業により、小学校では地域の自然、地域特有の伝統文化、歴史などに地域の人々と共に触れ、体験することで、地域の良さを知り、働く人々の知恵を学んでいます。

中学校では本市の産業、事業所等を調査し、自ら選択した職場での労働体験を通じて、働くことの意義、社会の基本的なルール等を学んでいます。それらは自らの将来を見つめ直す極めて貴重な体験であり、キャリア教育の重要な要素の一つとなっています。

本事業は、ふるさと「尾鷲」に誇りを持ち、大切に思う「おわせ人」づくりにおいて欠かせない施策であり、また、「尾鷲」を他者に伝えることは地域の活性化にもつながることから、今後も継続していただきたい事業です。

(7) 子どもの学びと育ち育成支援事業

QU調査は、子どもの問題が多様化、潜在化するなかで、教員が学級集団の現状や児童生徒個々の理解を深め、改善に向けて教師集団の連携した支援体制をつくる上で極めて有効です。子どもの学級での居場所についても把握できることから、いじめ、学級での孤立化等の未然防止にも活用されており

評価できます。調査結果の校内での共有、共通理解の上に立った指導のあり方など、得られたデータを十分に生かすための研修を継続していただきたいと思います。

また、幼稚園でのプロの人形劇団による人形劇は、「本物の芸術」に触れる大切な機会であり、情操教育の一つとしてもたいへん有効な事業であり、今後も継続していただきたいと思います。

(8) 中学校施設整備事業

台風被害で破損した尾鷲中学校グラウンドの防球フェンスの更新は、周りに民家が多いこともあり、体育の授業や部活動などを安全安心に実施することができるようになりました。

教育施設は老朽化が進んでいることから、優先順位を付け整備を継続し、より安全安心な教育環境を提供していただきたいと思います。

(9) 見守り子育て推進事業

子育て支援事業として、子育て関係各課、地域支援団体、ボランティアが協働して実施されている「子育てHAPPY DAY」は、ワークショップの中で「模擬通貨」をアイテムとして、労働対価と消費という社会体験をうまく機能させる工夫が見られるなど、子どもたちの参加意欲を高める良い事業となっています。

本事業は、単に子どもの居場所づくりや、子育て世代の負担軽減につながるだけにとどまらず、地域の子ども・子育て支援協力者、支援に積極的な団体等のネットワークを構築し、機能させるうえで重要なものとなっていることは評価できます。また「子育てしたい・しやすいまちづくり」にも大きく貢献しています。今後も周知に努め、より多くの市民に参加していただきたいと思います。

(10) 成人式事業

新成人による実行委員会形式になって久しく、企画、運営共にしっかりと定着し、望ましい形で実施されています。進行役の言葉、二十歳の思い、恩師のメッセージなど参加者はそれぞれの思いをもって受け止めていることが感じられます。新成人の「尾鷲に生まれてよかった。」「改めて尾鷲の良さがわかった。」という声も聞こえ、新成人にとっても、尾鷲市民にとってもなくてはならない行事となっています。市内の全ての学校の卒業生にとってかけがえのない式典となるよう、事務局や前年度の実行委員からアドバイスをいただくなど、より工夫・改善に努め、本市への就職・定住につながるような呼びかけをしていただくことを期待します。

(1 1) 放課後子ども教室推進事業

企画・運営にあたるコーディネーター、運営委員の方々、地元の講師の方々の努力もあって、年々講座数、参加者数が大幅に増え、更には普段は参加しにくい輪内地区で講座数を増やしていることも、大きく評価できます。また、講座内容も室内だけでなく、外にも目を向け、地域を舞台として地域の方々と共に行う活動も増えています。

子どもたちにとって、異学年、異学校と共に活動する貴重な機会であり、また運営委員をはじめとする地域の方々と関わることは、双方にとってやりがいであり、楽しみでもあり、結果として「地域で子どもは育つ」ことにつながります。今後もより多くの方々に関わっていただき、育てていきたい事業です。

(1 2) 公民館事業

公民館講座、サークル活動、自主事業、ロビー展など、市民の生涯にわたる学習活動を企画し、自主的学習活動を支え、また、活動を発表する場を提供するなど、公民館としてその機能をよく果たしています。また、高齢者の参加が多い講座・サークル、関係課との連携による子育て関連事業等も合わせ、毎年4万人を超える幅広い年齢層の来館者があり、市民にとってなくてはならない公共施設となっています。

一方、受講生の固定化もみられることから、今後も市民のニーズ調査等により、新たな講座の開設やより幅広く市民が活用できる、魅力ある施設となるよう期待します

(1 3) わんぱく子育て推進事業（親子天文サイエンス教室事業）

日本有数の天体観測施設である天文科学館を舞台に、親子が共通のテーマで参加し、一緒に学ぶことは、子育てのみならず、家族のきずなをより強くするうえで、極めて有効であると考えます。そのテーマが「宇宙」であることから、親子ともに夢や想像力は果てしなく広がり、親子間で絶好の話題となるに違いありません。

施設の老朽化は否めませんが、このような親子や家族ぐるみで参加できる企画の実施は、「みんなで子どもを育み、豊かな心を育てる」ために極めて有効であり、高く評価できます。

(1 4) 天文科学館管理運営事業

これまで1,000人台の来館者数でしたが、平成30年度から2,000人台に増加しています。これは、各学校からの来館、出前講座、興味を引く体験講座などメニューを多く用意したり、広報誌による市民優待券の配布等の創意工夫による結果であり、評価できます。まずは地元の人たちに

足を運んでもらい、尾鷲の星空の素晴らしさ、天文科学館の価値を知ってもらうことが重要であると考えます。

一方で、長く続いている恒例の七夕まつりは、参加者が10年前と比べると半減しており、工夫が必要です。また、一般対象の夜間観望会は、参加者が伸び悩みの傾向にあるため、各種天体を観望・観察させることに加え、体験型、参加型の観望会を検討していただきたいと思います。

(15) 本読み子育て推進事業

子育てにおいて、親と幼少の子どもがつながるためには、本は極めて有効です。小さいうちは親の読み聞かせ、成長するにつれてそれぞれが一人読み、感想、気づきを話し合うことの楽しさなどを青空図書館で体感できることは素晴らしいことです。本事業がきっかけとなり、親子の間での本の読み聞かせが家庭で定着することになれば、子どもの心の成長を促し、親子間の信頼、コミュニケーションが一層深まると期待できます。

また、手作り絵本や子どもによる紙芝居などは、読書活動とは少し異なる角度から本に関心を向けていくよい取り組みであり、今後も周知に努め、より多くの市民に参加していただきたいと思います。

(16) 図書館管理運営事業

幼児から一般まで、様々な企画で読書啓発・推進を行っていて評価できます。特に力を入れて取り組んでいる、低年齢層及び子育て世代への継続的な働きかけは重要で、先々で小中学生の読書習慣の形成に良い影響を与えることが期待できます。併せて小中学校への直接的な読書指導も実施されていますが、多くの学校でぜひ推進していただきたいと思います。

また、地区コミュニティセンターと連携して貸し出しを行うことは、図書館を訪れることが困難な市民にとっては非常に有益な取り組みであり、継続していただきたいと思います。

(17) わんぱく子育て推進事業（自然サイエンス教室事業）

本事業は、尾鷲の豊かな自然を舞台に、親子が興味関心をもって、「サイエンス」を探究するパートナーとなり、「子育て」を越えて親も子も共通の学びを通して「共に育つ」ことができる有用な事業です。中学生、大学生のボランティアスタッフ、子育て支援団体等と連携し、一体となって支援することにつながりました。このような事業を、尾鷲での魅力ある子育て関連事業の一つとして発信していくことで、多くの人が子育てに関わる「子育てしたい、しやすいまち」がイメージしやすくなるのではないかと考えます。

(18) わんぱく子育て推進事業（須賀利大池活用事業）

国指定天然記念物である大池は、海跡湖であり、湖底には過去の大津波による堆積物が確認され、地震・津波研究にとって重要な地形として注目されています。このような貴重な地形について専門家の説明を聞き身近に触れることは、本事業を通してのみしかできない体験です。貴重な尾鷲の文化的・歴史的財産は、市民が理解、共有し、有効活用していくことで尾鷲の良さを再認識し、尾鷲の魅力を発信していく重要なアイテムとなります。

また、子育て支援グループと連携した企画となっていますが、様々な分野の方に関与していただき、幅広く本事業を運営することにより、また次のステップへつながっていくと考えられます。

(19) 文化財一般保護事業

熊野古道については、馬越峠から曾根次郎坂・太郎坂までの区間を、4人の保全指導員の巡回や語り部の方からの情報をもとに、道標の更新や古道の補修を行っています。時には台風、豪雨により危険個所が生じることもあり、訪問者の安全確保のため、今後も巡回・点検を十分に行っていたきたいと思います。

須賀利大池・小池は、その保存状態が良好で、全国的にも極めて貴重な文化遺産であり、将来にわたって次世代の子どもたちに残していくべき優れた教材です。今後も引き続き県や専門家の指導の下、調査、管理・保全を行うとともに、郷土学習への活用を考えていただきたいと思います。

(20) 郷土室保存運営事業

数ある資料の現状維持・保存には神経を使われると思いますが、適切な管理ができています。所有文化財の企画展示もされていますが、まだ市民の目に触れていない、知られていない文化財も多くあると思われます。展示スペースが十分ではないかもしれませんが、創意工夫による年間計画の下で企画展示を実施し、郷土文化を伝承していただくことを期待します。

(21) 少年センター事業

関係機関、関係団体と連携して実施している青少年の健全育成や街頭補導、非行防止啓発などの取り組みは、地道ですが一定の成果を上げています。また、毎日の巡回パトロールは、安全・安心な子どもたちの登下校を提供するもので、その貢献度は極めて高いです。各学校とも連携し、さらに効果的なパトロールとなるよう工夫していただきたいと思います。

また、地域に密着した活動の中心的存在である「オッWASEふれ愛隊」や少年指導員の会、青少年育成市民会議と連携した活動は重要であり、指導

者の養成も含め、今後も更に関係を強固なものにしていきたいと思えます。

(2 2) 文化会館管理事業

落成以来25年を超え、補修・修繕を要する箇所が増えていますが、文化会館としての機能を維持していくために、緊急度を考慮した優先順位をもとに計画的に実施していく必要があります。

令和2年度からも3年間、「尾鷲文化振興会」が指定管理者となり、管理・運営、事業を推進していくことになりましたが、市民にとって気軽に文化活動に参加できる場、活動の発信の場として、また、優れた文化芸術に触れる場として、市民の多くが集い、満足できるような企画・運営を期待します。

(2 3) スポーツ振興事業

これまで尾鷲市スポーツ協会やスポーツ少年団と連携して、各種スポーツ大会の開催やスポーツ活動への支援などを行ってきました。子どもから高齢者まで幅広い年齢層が、スポーツをすることの楽しさを知り、競技力を向上させ、健康の維持増進を図るために大きく貢献していて、体育館、市営運動場などの運動施設は延べ5万人を超える市民が利用しています。

また、国体のデモンストレーション競技となっているユニカールはレクリエーション協会が、クップについては10月に新たに協会が設立され、おわせ海・山ツーデーウォーク、健康ウォークなどと共に市民への普及活動に取り組んでいます。国体を機に、このようなニュースポーツがこの地域にしっかりと根付いていくことを期待します。

(2 4) 三重とこわか国体活動費

本大会の開催に向け、県、競技団体や関係機関、地域の方々などと、より緊密な連携を図るとともに、国体の準備や当日運営を担う全庁的な体制を整え、国体の成功に向けて取り組んでいただきたいと思います。

尾鷲市をPRする機会でもあり、またデモンストレーションスポーツについては、関係団体の協力も得ながら普及・啓発を促進していただきたいと思います。

VI おわりに

尾鷲市教育委員会では、令和元年度は「尾鷲市教育ビジョン」の具現化第3期として、また後期計画の2年目として事業を実施しました。事業の点検・評価にあたり、より明確化かつ分かりやすくするため評価基準を見直し、各委員からは貴重なご意見等をいただきました。総評としては、目標に対して概ね達成できているとの評価でしたが、事業の問題点や改善点のご指摘、ご提案もございました。

今後、この課題の検討を進め、改善や工夫に取り組み、「共に創り未来になぐ誇れるまち、尾鷲」にふさわしい教育行政の推進を図ってまいります。